

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

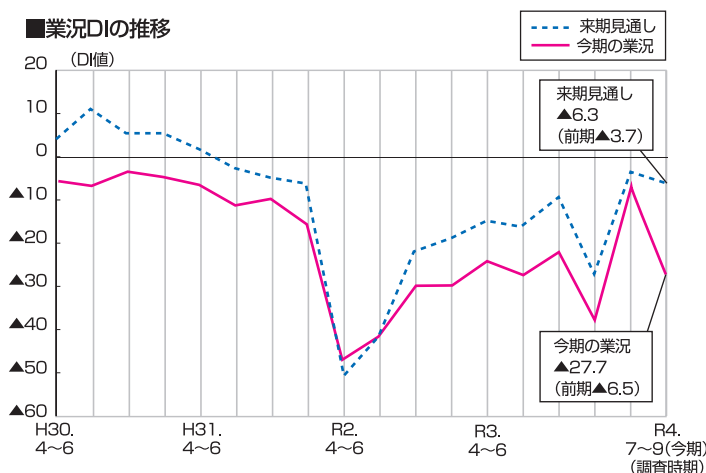
DI値	-25以下	-25~-10P未満	-10~-10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化	悪化	横ばい	好転	特に好転
	↓	↘	→	↗	↑

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 令和4年7~9月
回答企業数 131社

■業況DIの推移



今期業況は再び悪化。仕入コストの上昇などにより来期も厳しい見通しは続く。

【今期(令和4年7~9月期)の業況】
全産業の業況DI値は、▲27.7
(前期比マイナス21.2ポイント)で
悪化。前期、改善がみられたものの、
新型コロナウイルス感染症再拡大第七
波の影響を受け、再び悪化に転じた。
【来期(令和4年10~12月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲6.3
(前期時の来期見通し(▲3.7)と
比較してマイナス2.6ポイント)
で悪化。円安による仕入コスト
の高騰や原油高の影響が懸念されて
おり、特に製造業と建設業では厳し
い見通しとなっている。

■産業別DI値表

		前期 [R4.4~6] (A)	今期 [R4.7~9] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [R4.10~12]	
業況	全産業平均	▲6.5	▲27.7	▲21.2	▲6.3	→
	製造業	▲14.3	▲37.5	▲23.2	▲13.3	↘
	建設業	▲16.0	▲25.0	▲9.0	▲15.8	↘
	卸売業	0.0	▲15.0	▲15.0	▲5.0	→
	小売業	▲18.5	▲35.7	▲17.2	▲7.1	→
	サービス業	14.7	▲20.0	▲34.7	6.7	→
売上額	全産業平均	▲2.1	▲14.6	▲12.5	9.4	→
	製造業	▲16.7	▲6.3	10.4	12.5	↗
	建設業	▲16.0	▲25.0	▲9.0	▲15.0	↘
	卸売業	10.5	0.0	▲10.5	16.7	↗
	小売業	▲3.6	▲42.9	▲39.3	0.0	→
	サービス業	17.1	0.0	▲17.1	26.7	↗
資金繰り	全産業平均	▲5.7	▲20.6	▲14.9	▲9.7	→
	製造業	▲2.9	▲25.0	▲22.1	▲3.1	→
	建設業	▲16.0	▲30.0	▲14.0	▲25.0	↘
	卸売業	0.0	▲5.3	▲5.3	0.0	→
	小売業	▲22.2	▲30.8	▲8.6	▲19.2	↘
	サービス業	8.6	▲10.3	▲18.9	▲3.6	→
採算	全産業平均	▲17.0	▲32.6	▲15.6	▲13.2	↘
	製造業	▲34.3	▲31.3	3.0	▲21.9	↘
	建設業	▲41.7	▲40.0	1.7	▲21.1	↘
	卸売業	21.1	▲40.0	▲61.1	▲10.0	→
	小売業	▲32.1	▲37.0	▲4.9	▲25.0	↘
	サービス業	8.6	▲20.0	▲28.6	10.0	↗

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲14.6
(前期比マイナス12.5ポイント)と悪化。小売業ではマイナス幅
が大幅に拡大した。
全産業の資金繰りDI値は、▲20.6
(前期比マイナス15.6ポイント)と悪化。特に製造業とサ
ービス業で悪化した。
全産業の採算DI値は、▲32.6
(前期比マイナス15.6ポイント)と悪化。なかでも卸売業は前期から
マイナス61.1ポイントと著しく悪
化し、仕入コストの上昇に加え、経
費の負担増や価格転嫁交渉に苦慮す
る声が多く寄せられた。

また、値上げによる消費者の買い
控えを懸念する取引先からの需要停
滞も影響している。
【回答企業のコメント】
・原材料価格の上昇に伴う製品価格
への転嫁交渉が課題。また、専門性を
伴う技術者の人員確保が困難な状
況にある。(製造)
・部品や原材料が入手できないこと
が増えてきており、工事の延期や納
期の遅延が発生している。(建設)
・原油高や円安の影響で、仕入コスト
が上昇している。また、消費者の買い
控えも見られ、売上への影響が懸念
される。(小売)